

沖縄科学技術大学院大学における新型コロナウィルス対応基本方針

2021年11月現在、日本では非常事態宣言も解け、感染ピークは収まり、日常が戻ってきたようにも感じられる。しかし世界に目を転じればいまだ収束とは言い難く、予断を許さない状況である。このような状況下において、沖縄科学技術大学院大学（OIST）は感染対策を万全なものとしつつ、可能な限り日常の活動を再開させていく段階にある。これを実現させるために、次を基本方針とする。

- 1 OISTの教職員及び学生並びに関係者が安心して日常を過ごし、OISTで学び、研究し、活動し、働くことを通じて多くの機会と意義を見いだすことのできる場を取り戻す。
- 2 OIST教職員及び学生並びに関係者は対話を重ね、協調して具体的な対応をタイムリーに推進する。
- 3 OISTの感染対策は原則として沖縄県の方針に従う。ただし、OISTの国際性、多様性に十分配慮する。
- 4 OISTは、業者を含むOIST関係者に、「新しい生活様式」による基本的な感染防止対策の徹底、ワクチン接種又はPCR検査等を推奨する。ただし身体的な事情も含め、様々な事情でワクチン接種やPCR検査等を受けられないことを理由に差別や排除、機会が奪われる等の不利益が及ばないよう最大限の配慮をする。

段階	目安 (国の「レベル」分類)	研究活動	授業等	出張	学内会議	イベント (学術・ビジネス)	クラブ・レクリエーション活動
0	新規感染者がゼロ	基本的な感染対策を実施した上で、通常業務	基本的な感染対策を実施した上で、通常業務	基本的な感染対策を実施した上で、通常業務	基本的な感染対策を実施した上で、通常業務	基本的な感染対策を実施した上で、通常業務	基本的な感染対策を実施した上で、通常業務
1	安定的に一般医療とコロナ医療が両立可能	各セクション及びファカルティの管理体制による感染防止対策を徹底することで研究活動を行う。	十分な感染防止対策を施した上で、対面授業にオンラインを併用して授業等を実施する。	出張先の感染状況を確認した上で出張する。出張後はPCR検査等を実施することを原則とする。	十分な感染防止対策を施した上で、対面にオンラインを併用して学内会議を実施する。	十分な感染対策を施した上で、沖縄県の対処方針に従って、イベント (学術・ビジネス) を実施できる。	十分な感染対策を施した上で、沖縄県の対処方針に従って、クラブ・レクリエーション活動を実施できる。
2	感染者が増加傾向。段階的な病床増でコロナ医療が可能	各セクション及びファカルティの管理体制による感染防止対策を徹底することで研究活動を行う。	十分な感染防止対策を施した上で、対面授業にオンラインを併用して授業等を実施する。	感染が広がっている地域への不要不急の出張は自粛する。出張後はPCR検査等を実施することを原則とする。	十分な感染防止対策を施した上で、対面にオンラインを併用して学内会議を実施する。	可能な限りオンラインで実施する。必要な場合は十分な感染対策を施した上で、沖縄県の対処方針に従って、イベント (学術・ビジネス) を実施できる。	可能な限りオンラインで実施する。必要な場合は十分な感染対策を施した上で、沖縄県の対処方針に従って、クラブ・レクリエーション活動を実施できる。

段階	目 安 (国の「レベル」分類)	研究活動	授業等	出 張	学内会議	イベント (学術・ビジネス)	クラブ・レクリエーション活動
3	一般医療を相当制限しないとコロナ医療に対応できない。 従来の「ステージ3、4」にあたる。	各セクション及びファカルティの管理体制による感染防止対策を徹底することで研究活動を行うが、現場での滞在時間を減らし、オンラインでの活動を推奨する。	原則オンラインにより実施するが、定期試験や学位論文審査、実技・実験・実習等、必要な場合は十分な感染防止を実施した上で、対面により実施することができる。	業務上やむを得ない場合のみ出張ができる。出張後はPCR検査等を実施することを原則とする。	原則オンラインにより実施するが、十分な感染防止対策を施した上で、対面により実施することができる。	原則オンラインにより実施する。	原則オンラインにより実施する。
4	一般医療を大きく制限してもコロナ医療に対応できない。	各セクション及びファカルティの管理体制による感染防止対策を徹底することで研究活動を行うが、現場での滞在時間を減らし、オンラインでの活動を推奨する。	原則オンラインにより実施する。	原則禁止	原則オンラインにより実施する。	原則オンラインにより実施する。	原則オンラインにより実施する。